



ながれ



日本の『よさ』の再発見 ～戸三小から発信～

校長 服部 みどり

以前、まだ私が学年担任をしていた頃のことです。教室にごみが落ちていたのに、そのごみを跨いで通る子がいたことに、とてもショックを受けました。気付かないことならあると思うのですが、跨いでいるということはごみがあることが分かっていて、それをよけているということです。とても悲しい気持ちで、ほうきとちりとりを取りに行きました。私がほうきでごみを1か所に集めていると、何も言わずにほかのところに残っていたごみを掃いてくれた子がいます。それも複数です。私の悲しかった気持ちは、とても温かいものにかわりました。おそらく、この人たちは、ごみを落としたりそのままにしたりしていた人ではないでしょう。ごみを落としてそのままにしたり、「私が落としたごみではないから知らない、拾わない。」と言ったりすることもないと思います。ごみを落とした人だけがごみの片付けをする世の中を想像すると、なんと殺伐とした感じなのだろうと思います。

戸三小では、10月25日に2学期の『地域清掃』がありました。地域・保護者の方々が、子供たちの登校班に町会ごとに付き添ってくださり、大人と子供で自分達の町をきれいにしました。自分が落としたごみでなくても片付けるととても気持ちがよいこと、地域の方々のお手伝いに感謝することも学びました。ごみや環境問題について考える時によく使われる言葉、3つの『R』・・・Reduce(削減)、Reuse(再使用)、Recycle(再資源化)についてご存知の方は多いと思いますが、4つ目の『R』のことを御存知でしょうか。環境分野で初めてのノーベル賞を受賞されたケニア出身のワンガリ・マータイさんが、3つの『R』を支えるのは、相手や物を尊重する心、感謝の心であり、敬意や愛という気持ちが込められていると、話をされ、4つ目の『R』として、Respect(敬愛)を進言したということです。子供たちが学んだことも同じで、ただ単にごみ拾いをしただけではなく、ごみ拾いをしながら人と人との関わりや自分や相手の気持ちに気付くことができたのではないかと思います。ワンガリ・マータイさんは、日本の言葉の「勿体ない」を世界に「MOTTAINAI」として広めました。その言葉と言葉の裏にある意味や価値には、多くの世界中の人達が感銘を受け、日本人の知恵に注目が集まり「Furoshiki」という文化にも改めて注目が集まっているそうです。用途に合わせた包み方ができ、何度でも利用できる風呂敷は確かに素晴らしいものですが、このように日本以外の国で注目してもらうまでは、忘れられていたものの1つだと思います。日本には、実はまだまだ素晴らしいものがたくさんあるのではないのでしょうか。子供たちに日本の可能性をたくさん引き出してほしいと思います。



5年生は今、総合的な学習の時間に「日本の伝統文化」を通して「日本」や「自分」を見つめ直す学習をしています。そして、華道、茶道、合気道、弓道、日本建築、陶芸、切子、和菓子、染物について地域の方から教えていただいたり体験活動をしたりする中で、共通するものがあることに気が始めています。きっと日本のよさを伝える担い手になってくれると思います。身に付けた日本人の素晴らしさを発揮したのは6年生です。6年生は、10月17日～19日まで、日光移動教室に行きました。東照宮の秋の例大祭の千人武者行列や彫刻の素晴らしさに息をのみ、奥日光の美しい紅葉やきれいな空気などの自然を五感で味わい、ハイキングで出会った観光客の方々から「素晴らしい時期に素晴らしい場所に来ることができて良かったわね。」と声をかけられ、自分が当たり前だと思っている毎日の生活を振り返るなど、いろいろな方とのそれぞれに貴重な出会いを経て、「自分から進んで動く」「考えて行動する」「感謝の気持ちを表現する」ことができました。私は、戸三小の子供たちがたくさんの人と出会い、たくさんの刺激をいただき、たくさんの思いを自分の中に蓄え、たっぷり蓄えた後で今度は自分からあふれる思いを発信してほしいと思います。そのための支援を地域の方々・保護者の皆様とこれからもしていきたいと考えます。どうぞよろしくお願いいたします。